

渡米して変化した グローバル人材像

茶 谷 哉 汰
Kanata CHATANI
電子情報通信課程 4年

私はグローバル人材育成プログラムに参加し、サンフランシスコへ19日間滞在しました。サンフランシスコはアメリカ大陸の西海岸に属しており、羽田空港からおよそ9時間から12時間に到着します。西海岸で1位、2位を争う工業発展都市であり、サンフランシスコ市内には、UBERや、Airbnbなどの大きなサービス業が集まっていますし、郊外のシリコンバレーには世界を代表する名だたる企業が並んでいます。

私は研修前、グローバル人材について一つの言語だけでなく、複数の言語を流暢に話し、それによってコミュニケーションを多くの人と円滑にとれる人のことだと考えていました。すなわち、人と会話する能力に長けた人だと考えていました。

私はインターン先として「Japantown Task Force (以下 JTF)」という団体で研修をさせていただきました。この団体は、サンフランシスコにある「ジャパントウン」の継続的な発展を担う NPO 法人です。JTF での主な仕事内容を以下で簡単に紹介します。

JTF は他の NPO 法人やサンフランシスコ市と協力し、Japantown 内にある「Osaka Way」のリデザインを一任されています。1960 年代にデザインされた Osaka way という道は、アサワさんという日本人の芸術家の方が作られた道です。しかし、芸術性の影響で、地面がとてもゴツゴツしており、足元が不自由な方の怪我の報告が相次いでいました。私たちはその手助けとして2つの調査を行ないました。1つ目は Osaka Way に店を構える店舗に実際に伺い、どのような開発が必要かのアンケートを配り、回収しました。もう1つの調査は、地域に住むお年寄りの方やイベントに来ていただいた方にアン

ケートを実施し、大阪ウェイの歩きやすさや景観の改善点などを募集しました。合計で112人の方から貴重な意見をいただくことができました。

また、Japantown のイベント、BONPOP にもボランティアとして参加させていただきました。大勢の方が参加してくださり、とても賑やかな祭りになりました。アメリカでは様々なバックグラウンドを持つ日系の方やそれ以外の方が生活しており、祭りにも参加されていました。BON POP では浴衣ではなく、自身のルーツである衣装やその他の文化を融合させた服装を着ることを認めています。様々な服装を身にまといみんなで盆踊りを踊る光景はとても素晴らしかったです。

研修最終日、JTF で調査内容のファイナルプレゼンテーションを行いました。ほかの法人の方や引率の先生方も合わせて、合計で11人の参加者の前でプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションは全て英語で行われられない英単語の発音には苦労しました。

先端理工学の分野とは違う職場であることを承知の上でこの職場を選びました。研究内容に沿った経験をしたかといわれるとそうではないかもしれませんが、しかし、ほぼ毎日現地の方たちと仕事上で英会話を行う機会があり、得に BtoB の形態で海外の方とお話しできたのは何事にも代え難い経験でした。この経験によって就職活動で外資系企業に目を向けて活動を行いたいと考えるようになりました。

研修以外ではおもに買い物をしてサンフランシスコを満喫しました。サンフランシスコはアメリカ全土でも有数の物価が高い街であり、円安の影響も重なりなかなか奮発して買い物をすることはできませんでした。しかし、現地で私が見たカフェのアルバイト募集の時給は30ドルであり、日本円で4500円ほどです。そう考えると、物価が高くても生活には苦しまさそうです。とにかく日本からの旅行者には生活がきついことがわかりました。

この研修で自らをグローバルな環境に身を置いたことにより、私の考えるグローバル人材像について

先述の会話能力の大切さは確たるものになったうえ、2つのことが追加でわかりました。グローバルな関係になればなるほど様々なバックグラウンドを持つ人々とのかかわりが増えていきます。その中で全体を考慮したアイデアを持ち、指揮を執ることができる人がグローバル人材なのだと感じました。また、指示待ち人間ではグローバルな人材にはなれません。積極的にチャレンジし活動を通して発見ができる人がグローバル人材なのだと結論付けました。

私がこのような結論に至った理由は研修時にお世話になった研修生の存在にあります。JTFでは研修生として私と花村大志さんとの2人でお仕事をさせていただきました。大志さんは東京大学を卒業し、現在三井不動産で4年間勤務されており、会社の研修ということでサンフランシスコに来られていました。大志さんは両親の転勤で香港に住んでいた時期があり、英語が非常に達者で流暢です。しかし、大志さんを見ていると英語力のほかに相手の立場や出方によって抑揚や話し方を変えてスムーズに仕事を進められていました。大志さんは日本でも海外の方と話す機会が多くあり、既にグローバル人材として活躍なさっています。この様な日本トップクラスの企業に勤めていらっしゃる方と一緒に仕事をし、グローバル人材像の見本を見ることができ大変うれしく思います。

私は華のようなサンフランシスコのイメージをもって渡米をしたのですが、以下のような負の面も持ち合わせている街だということがわかりました。サンフランシスコでは、土地の価格が高騰し、家を持っていない人がたくさんいます。時給が30ドルのアルバイトがあったとはいえ、家を持ったり借りたりすることは容易ではありません。そのため路上駐車をし、キャンピングカーで寝泊まりする人がいたり、道にテントを張って、ホームレスとして生活する人がいたりします。2019年からの3年間でベイエリアではホームレス人口が35%も増加したというサンフランシスコ市の調査があります。

また、大麻が合法であるため、薬物中毒者が大変多く見受けられました。コロナ禍において、より中毒性の高いドラッグが全米で広がりました。サンフランシスコのテンドーロイン地区にはドラッグを吸い、道の真ん中で身体を曲げた状態でピクリとも動かない状態の人が大勢いました。死の危険性が高いドラッグであり、路上でお亡くなりになるかたも後が立たないようです。

また、サンフランシスコのあるカリフォルニア州では、2014年に驚くような法改正がなされました。

なんと、被害額950ドル(約14.5万円)以下の窃盗、万引きは、罪が軽減され軽犯罪となる法改正です。

軽犯罪は日本での一例としてタバコのポイ捨てに当たります。タバコのポイ捨てと10万以上の万引きが同列で扱われるのです。

ダウントウンのマーケットにいる時にセキュリティに止められてカバンの中をチェックされている方を見つけました。カバンの中から驚くほどの数の商品が出てきて回収されていました。しかし、商品を回収したセキュリティの方が万引きした人に「Thank you」と言っていたのが印象的です。冤罪の可能性がある上、万引きは軽犯罪なのでそれよりも罪の重い、暴力や羽交い締めなどでは容疑者を止めることはできないのです。このため、様々なお店がサンフランシスコを含むカリフォルニア州から撤退している模様です。競合店舗が減少していることも物価高騰の一因であると考えられます。これからのサンフランシスコが少し心配です。

この研修を通してものすごくたくさんさんの経験をさせて頂きました。英語があまり話せない状態で海外に行くということにすごく不安を抱いていましたが、周囲の人々のフォローやフレンドリーな国民性もあり、楽しい時間を過ごすことが出来ました。連絡先を様々な人と交換できたのでこの貴重な出会いを無駄にせず国際的な関わりを持ちたいと考えました。本当にサンフランシスコに行って良かったと思います。